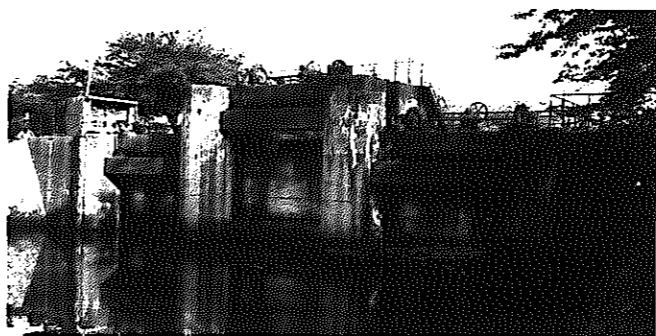


昭和42年8・28水害時の谷流点付近の浸水状況



水では、切り下げ箇所を中心  
に、溢水（いっすい）の危険  
があるたびに、そのつど土の  
う積みなどによりはん濫を防  
いできました。  
また、大河津分水路の完成  
当時は「安全」と考えられて  
いましたが、堤防切り下げに  
加え、昭和三十五年ころから

地盤沈下による浸水被害の増  
大、三十六年以降に頻発した  
洪水によって刈谷田川、五十  
嵐川、加茂川などの支川が改  
修されたことで、下流の安全  
度がさらに低下することにな  
りました。  
信濃川下流の堤防整備率は  
一二から一三％と非常に低く、

全国平均の五〇％にはとうて  
い及びません。  
信濃川流域の溢水の危険箇  
所のうち、本市に係る中  
ノ口川合流点から庄瀬橋まで  
の堤防を切り下げた堤防低部  
箇所の復元工事は、五十六年度  
から工事が行われ、現在急ピツ  
チで工事が進められています。

## 鷺ノ木水門は 今年度着工、63年度完成

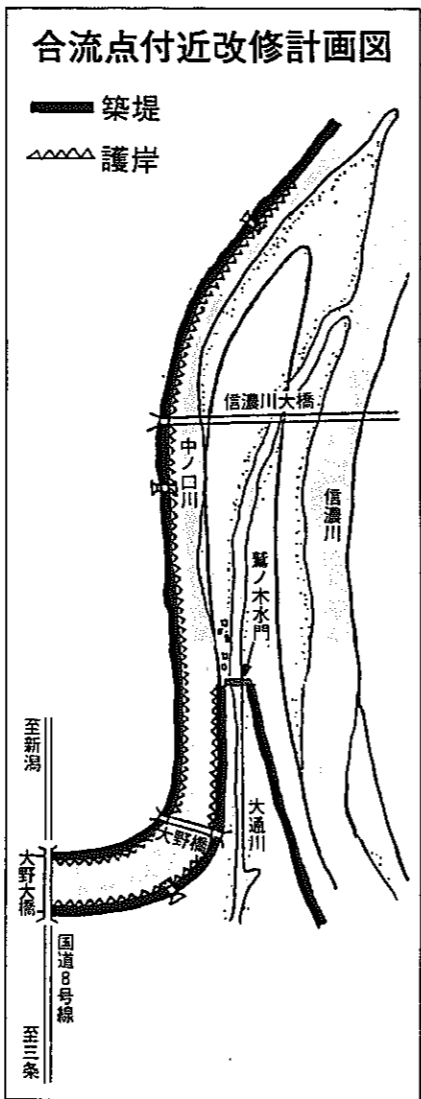
鷺ノ木大通川の水門は、信  
濃川、中ノ口川、大通川の三  
河川が合流する地点にあり、  
逆流防止を目的として昭和三  
十一年に県が設置したもので、  
当時としては全国でもりっぱ  
な施設でした。

二十以上流に水門を改築する  
こととして、今年度から六十  
三年度までの三か年計画で実  
施することになりました。

### 事業推進に協力を

堤防は私たちの生命、財産  
を守り、流れる水は生活用水、  
かんがい用水にと、幅広く生  
活を支えてくれる大切な資源  
です。

合流点処理、鷺ノ木水門改  
築は百億円を超える大事業で  
す。これを計画どおり実施す  
るには、皆さんの協力が必要  
となります。



## 住居の移転が大きな問題

桜町河川工事対策協議会

品田栄一 会長

本市の最北端に位置する鷺  
ノ木桜町は、信濃川と中ノ口川  
に囲まれ、中央には大通川が  
流れて、堤防沿いには桜並木  
が続く、風光明媚な地域です。  
昭和五十八年八月、市建設  
課から、建設省で大規模な河

川改修工事が行われることを  
聞かされました。  
早速、役員会や総会を開い  
て協議した結果、白根市を水  
害から守る大事な事業である  
ことは理解できるものの、部  
落戸数七十戸のうち二十四戸  
が長年住みなれた家を移転し  
なければならぬという大き  
な問題がありました。

桜町部落には、何事も住民  
が一致して当たるといふ伝統  
があり、今回の難問題を乗り  
切りたいと思えます。

陳情内容は

- ▽ 代替地を絶対条件とする  
こと
- ▽ 水門下流の住民も、上流  
の住民と同じく移転の対象と  
すること
- ▽ 工事の長期化が予想され  
るので、その間の住宅の増改  
築について協議する。  
など六項目です。



平常時の合流点付近